

あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 12 号 平成 15 年 12 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号

財団法人福島県農業振興公社

TEL 024-521-9833 FAX 024-524-2393

本県で東北・北海道農業公社ブロック会議が開催されました。

平成 15 年 10 月 16 日～17 日の両日、福島市庭坂町のホテルにおいて、東北・北海道の公社役職員及び東北農政局、福島県、全国農地保有合理化協会の各担当者等総勢 32 名が参加し「平成 15 年度東北・北海道農業公社後期ブロック会議」が開催されました。

この会議では、農地保有合理化事業等の推進を図るため、東北・北海道農業公社の農地保有合理化事業の実施状況の報告や質疑要望事項について討議がなされました。



(ブロック会議風景)

北海道及び各県公社の報告では、近年の農業情勢の影響により売買事業がやや減少傾向にあることが明らかになりました。

また、東北農政局及び全国農地保有合理化協会からは、平成 16 年度予算要求の状況や米政策改革に伴う構造政策の推進について説明があり新たな米政策の推進については各機関、団体の役割が改めて明記されたことを踏まえて、農地保有合理化法人である農業公社のより積極的な農地集積の展開を求められました。



(あいさつをする福島県公社専務理事)

福島県農業経営基盤強化促進検討会が開催されました。

平成15年12月4日(木)県庁西庁舎12階講堂において、当公社が福島県との共催により、県、市町村、JAの担当者等総勢約200名が一堂に介し「平成15年度福島県農業経営基盤強化促進検討会」を開催しました。

この検討会は、11、12月を「福島県農業経営基盤強化促進月間」と位置づけ、その一環として、農業経営基盤の強化に関する施策に従事する実務者を対象とし、今後の施策展開を円滑に推進するために開催されたものであります。



「地域農業の担い手の明確化について」を説明する、県担い手育成グループ 遠藤主査



「地域営農システム」の必要性について説明をする、県専門技術グループ 木村主査

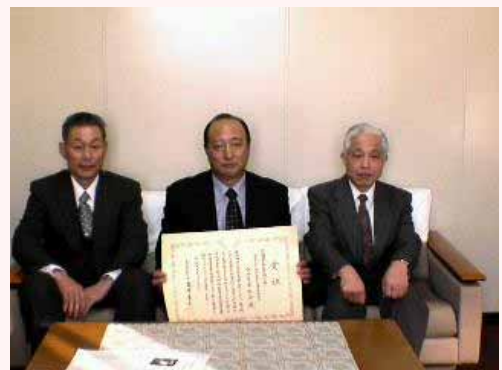


「米づくりの本来あるべき姿」に向けた農地保有合理化事業の推進について説明をする 当公社 遠藤主任主査

谷地生産組合が当公社を訪問

平成15年12月5日(金)谷地生産組合(会津坂下町)佐藤憲治組合長(写真中央)と佐藤裕一副組合長(写真左)が当公社を訪れ、土地改良事業地区営農推進優良事例表彰式で農林水産大臣表彰の受賞の報告がありました。

谷地生産組合は、農地保有合理化事業の機能を活用し、農地集積を図り一集落一農場を確立したことが高い評価を受け、今回の表彰となりました。



福島県代表2名が全国大会へ

～第34回東北農村青年会議秋田大会から～

平成15年11月4日(火)～6日(木)の3日間、秋田県秋田市を会場に、第34回東北農村青年会議が開催されました。

この会議には、当育成センターが派遣したプロジェクト発表及び意見発表の県代表2名を含む青年農業者33名が参加しました。

本県代表で、プロジェクト発表を行った鈴木立樹さん(東西しらかわ青年農業者連絡協議会)は「自家配合飼料をもう一度見直そう」の課題で最優秀賞(東北農政局長賞)を受賞されました。



(安齋さん写真左、鈴木さん写真右)



(プロジェクト発表をする鈴木さん)

また、意見発表を行った安齋孝和さん(安達地方農業後継者クラブD"ATCH)は「Depend on 自分自身」の課題で優秀賞(全国農村青少年教育振興会長賞)を受賞されました。

本県代表の両名は、来年東京で行われる第43回 全国青年農業者会議に、東北代表として発表することになりました。

なお、この会議は来年福島県で開催される予定となっており、当公社も共催機関として運営にあたることとなっています。

総務課



ホームページを開設いたしました。

平成15年10月1日当公社のホームページを開設いたしました。ホームページアドレスは次のとおりです。是非アクセスしてみてください。

アドレス: <http://www.fnk.or.jp>

公社利用者の声



「チャレンジ精神」

須賀川市 常松 智世

他企業からの転職を経て、もうすぐ2年がたちます。

女性で（しかも独身!?!）農業を職業とするなんて、当時、私の周りには誰もいませんでした。

なぜ、自分が農業を選んだか？それは、生涯を通じて没頭できる仕事であり、リタイアがいつだという期限のない職業だったからです。

もう1つは、女性が活躍する場として、まだ開拓されていない分野だったからというものです。

経験という経験はまだまだ未熟ですが、何事にもチャレンジ精神はつき物です。さまざまな失敗を重ねて、それでも自分のスタイルを確立していければいいと思っています。

今年はといえば、冷害の被害にだいぶ痛い目に遭いましたが、私にとっては、貴重な経験ができたと思っています。もちろん、自然の摂理にはかないませんが、この悔しい気持ちをバネに、来年から再び強い気持ちを持って、仕事に取り組みめると感じています。

去年はビギナーズスタディ、今年は先進地研修など経営開始支援資金をフルに活用し、数多くの知識や他県との交流を持つことができました。

常にチャレンジ！そして、ハングリー精神を持って、すべてを糧に前進していきたいと思っています。



編集後記

毎年、その年の世相を反映した漢字として、日本漢字能力検定協会から発表される漢字一文字は、今年は「虎」だそうです。18年ぶりに優勝した阪神タイガースの大活躍があって「虎」の応募数が1番多かったとか。相変わらずの経済不況や凶悪犯罪の激増等、社会の閉塞状況が続く中、少しでも明るい話題との思いから「虎」に応募が集中したのではとの新聞記事の解説もありましたが、来年こそは、「明」の年であって欲しいと願っています。 (k.k)

問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島県福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(524)2393
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

この広報誌は、再生紙を利用しております。

「あなたを、守る シートベルト 忘れないでね」